

談話室



「新三木会」― 出口治明・立命館
アジア太平洋大学学長の講演

日本の未来を考えよう

川面 忠男

関西弁で対話するように語ったが、目から鱗といった内容だった。受付で出口先生の著書「本物の思考力」(小学館新書)が販売されていたが、拾い読みつつ講演を聴くと、さらに内容を補足できた。

立命館アジア太平洋大学はどういう大学か。大分県別府市にあり、学生6千人のうち3千人は留学生。出口先生は「若者国連」と表現した。

先生は京都大学法学部を卒業後、日本生命に入社、ライフネット生命の社長・会長を歴任して今年1月、同大学の学長に就任した。以下は講演内容の私なりのレポートである。

人間の脳は見たいものしか見ない構造になっている。昔の人はどう見たか、世界の人はどう見たか、というタテ、ヨ

コの思考が重要だ。タテ、つまり歴史を見れば、源頼朝と妻の北条政子は夫婦別姓だった。ヨコの世界を見れば、OECDの先進国で夫婦同姓を強制している国は皆無である。

脳を刺激するには「人・本・旅」がキーワード。たくさんの人に会い、本を読み、いろいろな現場に出かけて体験を重ねることで、人は情報を蓄積する。

高齢化社会は若者たちが高齢者の面倒をみる騎馬戦型から肩車型となった。肩車社会は当り前のことではない。

定年制を止め高齢者でも働けるようにすればよい。定年制は当り前という社会常識が邪魔をしている。大リーグで活躍した大投手の松坂大輔が中日ドラゴンズに入団テストを受けて入った。盛りが過ぎても、能力のある人がいる。年功序列制がなくなれば、中高年のやる気も増そう。年金財政の負担軽減に通じる一石二鳥となる。

5年後には団塊の世代が後期高齢者の負担が重くなる。平均寿命が延びるのは結構なことだが、介護費を軽減するには健康寿命を延ばすしかない。これは「算数」だ。

国の財政は異常であるが、社会を支えるには消費税の比率を高めたり所得の高い高齢者には一定の負担をしても

らうためマイナンバー社会にしたりといったインフラを整備することだ。

消費税率を高めると「弱い者いじめ」という議論が出てくる。OECD諸国と比べると、日本の税負担率は低い。国民負担率の国際比較は財務省のデータによると、35か国のうち下位から7番目。しかし、社会保障支出の国際比較はOECDのデータによると、日本は中位に位置している。日本は「不負担の国」、中福祉の国」なのだ。

このように数字を見て考えたい。「タテ、ヨコ、算数」、言い換えれば「数字、ファクト、ロジックで考え抜こう」ということになる。

人口減が続く見通しだが、出生率が国の目標の1.8人にならないのは育児が難しいからだ。待機児童が多いことも一因だが、空き家を保育園として利用するといった発想があつていい。政治は何一つまともな対策をやっていない。フランスでは①産みたいときに産む②待機児童ゼロ③育児は仕事に役立つ、というシラク3原則と移民学生で人口を維持している。

将来は移民も増えよう。日本は単一民族国家という通念があるが、必ずしもそうではない。日本人のDNAをデータで見ると、韓国や中国に比べて偏りが小さい。従って多民族国家と認識すべきだ。

GDPは「人口×生産性」であり、人口が減れば生産性を高めればよい。このまま貧しくなるか、経済成長を続けるか、という選択になる。GDPを維持、増大するには製造業が成長を引張ったというモデルからサービス経済化を一層進めるといった成長モデルに転換する必要がある。サービス需要に合う商品開発を進めなければならないが、それには女性の活用が必須になる。

供給と需要をマッチングさせ、女性が輝く社会にしようというわけだが、それには長時間労働をやめることだ。

人間の頭の集中力は2時間が限度というのが脳学者に共通した見解だ。その2時間が3コマか4コマというのが働く時間だ。

長時間、会社のパソコンに向かっているだけでは、よいアイデアが生まれないだろう。人に会って見聞を広げるほうがアイデアを生むには役に立つ。「人・本・旅」がここでも必要だ。働き方改革のポイントだ。愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉もある。



以上のように「日本の未来を考えよう」と題して出口先生は少子化対策、高齢化対策などについて1時間ほど講演、その後で質問タイムになった。質疑応答が1時間ほど続いたが、私は以下の2点にとりわけ興味を持った。

一つは1万冊の本を読んだ出口先生の記憶力はどうかという質問。これには自分の言葉にするという応えだった。映画を2度見るグループと1度しか見ないが、それについて語らせたグループの記憶度を調べると、後者のほうが高いというデータがある。

二つ目は立命館アジア大学の卒業生の就職状況の関するものだが、同大学では英語と日本語で授業を行っている。

例えばベトナムからの留学生はベトナム語、英語、日本語を話せるわけで、こうした学生はベトナムで事業を展開する企業が採用したくなるのも道理だ。

講演の冒頭、出口先生は立命館アジア太平洋大学の大学ランキングは西日本の私学ではトップと言ったが、なるほどと頷ける。元・日本経済新聞社、早稲田大学政経学部39年卒

講演を聴いて 感想片々

今回の出口講師は博覧強記ぶりや講演力の見事さだけでなく、何よりも第2、第3の人生への展開、それも未来社会へ「貢献する 実践力の発揮ぶり」に感動しました。

聴講の高齢者へ「素晴らしいモデル提起。退職後高齢者も知識見を高め広げるだけでなく、既成組織やしがらみを脱した強みを生かし、どんなに小

さくとも社会貢献実践力の発揮を心掛けたものです。本当に我が意を得たりで、素晴らしい講師を招いてくれて感謝。川原啓佑（35卒）

過日の講演会、参加してよかったです。大変勉強になりました。

出口さんはおそらくいろんなデータが整理されて、頭のファイルに書き込まれていると推察されました。

山下靖典（慶応義塾大学法学部卒 元朝日新聞）

出口先生のお話はひとつひとつ腑に落ち、気持ちがあつとしました。

老若男女、人種、いろいろ、時には自覚なしに差別化しているのには、自分を含めて違和感があるので万歳を叫びたい気分です！垣根を低くしていきたいと思えます。

小林陽江 主婦

出口治明氏の大講演会に参加させて頂き感無量でした。とりわけ、「性や年齢で相手を分類しない。」という出口さんの生き方には神の啓示を感じました。これからは「年齢不詳」「年齢不問」で自分自身、生きて行こうと決意しました。

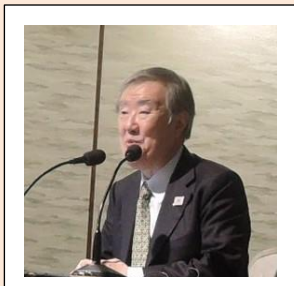
市川周（50卒・一橋総研）

出口先生のお話は漫談調なのですが、なかなか難しい問題です。現在、社会保険の負担は厚生年金の標準報酬月額の上限は620千円です。給料が100万円であろうと500万円であろうと620千円に対する保険料を払えばいいのです。ちなみに健康保険の標準報酬月額の限度は1390千円です。これは日本は「不負担国」ですね。これは昨年8月までのルールですが、今年の9月からはどのようなルールになるのかまだわかっていません。

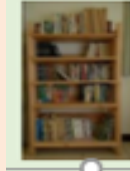
原信夫（教育大33卒）

本当にありがとうございました。出口さんの講演は、何度伺ってもフレッシュに楽しめます。

大森隆・小学館編集者



書架



『実録・銀行』

前田裕之著

18・2 日本経済新聞出版）
— トップバンカーが見た興亡の60年史 —

慈海

本書は銀行を熟知する日経新聞・前田裕之記者による高度成長期からバブル時代、メガバンク再編まで旧富士銀行頭取、ドイツ証券会長、日本政策投資銀行社長を歴任してきたトップバンカー・橋本徹の足跡を辿り、「10年毎にトランプルを繰り返す」グローバル金融資本主義のあり方に懸念を抱き、銀行は信用が基本でサウンドバンキングに徹するべきである」との主張を紹介する。

最近、金融機関の不動産融資への傾斜、メガバンクの大型カードローン、利用した高齢者自己破産の増加、地方銀

行の入居者不在のアパートやシェアハウスへの融資の破綻、などバブル融資ともいえる現象が目立ってきた。背景には、マイナス金利やフィンテックの拡大で金融機関の収益環境が厳しく、国際業務の拡大やリストラ策以外、戦略的な成長戦略が描けていない事情がある。

仮想通貨もバブルのようだ。17年4月決済手段として認知された仮想通貨が一攫千金を求める若い人たちが巻き込み価格が急騰、本年に入り安全対策未済のコインチェックから580兆円の仮想通貨(ネム)が不正流出、同社は利益の460億円(こゝまで儲かるのか!)で支払うという。金融庁の対応も後手に回っていた。被害者は若い人だ。(仮想通貨「バブル」日経新聞社編18・3)。

日本経済新聞社は、バブル取材で深部を知る永野健二記者による『バブル』(16・11)や最前線にいた日銀マン・植村秀一による『バブルと生きた男』(17・1)、上記の関係記者を動員した『仮想通貨バブル』など、バブルの兆候を懸念する著作を相次いで出版してきたが、本書もこの系譜に属する『バブル再来を懸念、警鐘を鳴らす』良書で、その問題意識には敬意を表したい。

橋本徹は国際業務を通じ金融会社や中南米通貨危機で不良債権を知りバブルとは無縁であったが、頭取として巨額の不良債権を抱えた富士銀行に直面、拡大路線を切り換え、審査体制強化、銀行・行員の行動ルール制定など健全化に向け体質改善を実施した。住専問題での対応、政策投資銀行での業績も際立つが、私心のない人格は、キリスト教信仰が支えとなっているようだ。

バブルの教訓として二つ。第一は、国を挙げてバブルに流れ、慎重意見は無視される悪弊。金融機関は、経営者の見識が最重要であるが、組織として過去失敗経験もある審査機能や現場の軽視がバブルの原因となった。第二に、富士の赤坂ほか、尾上縫も不正手段として定期預金の偽証書が使われたこと。昭和恐慌でも使われたこの不正情報はどう発掘され伝播されたのだろうか。

以上
(39 卒)